

令和6年12月25日  
TAC建築士講座

皆さんこんにちは！

TAC一級建築士設計製図講師の清田（セイタ）です。

まずは本日、一級建築士試験に合格された皆様、本当におめでとうございます！

今年度の課題「大学」について、建築技術教育普及センターからの発表内容を受けて講評を致します。

## ■令和6年度 試験公表データ

- 製図実受験者数 11,306名（前年10,238名）
- 合格者 3,010名（前年3,401名）
- 合格率 26.6%（前年33.2%）
- 学科からの最終合格率 8.8%（前年9.9%）

### ◆採点結果の区分

ランクⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのそれぞれの割合は次のとおりで、「ランクⅠ」のみが合格となります。

ランクⅠ：26.6%（前年33.2%）（合格）

ランクⅡ：1.5%（前年2.1%）

ランクⅢ：23.9%（前年22.1%）

ランクⅣ：48.0%（前年42.6%）

### ◆受験者の答案の解答状況

ランクⅢ及びランクⅣに該当するものが多く、具体的には以下のようなものを挙げる事ができます。

- ・設計条件に関する基礎的な不適合：「階段の不成立」、「要求室・施設等の特記事項の不適合」等
- ・法令への重大な不適合：「道路高さ制限」、「延焼のおそれのある部分（延焼ライン）の明示と防火設備の設置」等

### ◆採点ポイント

#### （1）空間構成

- ①建築物の配置・外構計画、②ゾーニング・動線計画、
- ③要求室等の計画、④建築物の立体構成等

#### （2）建築計画

- ①建築を学ぶうえで、参考（教材）となるような建築物の計画
- ②学生や教職員の多様性への配慮及びユニバーサルデザインに配慮した計画
- ③学生間の交流や学生と教員の交流の場に配慮した計画

## 資格の学校 TAC

### (3) 構造計画

- ①基礎免震構造の特性を踏まえた計画
- ②講堂の構造計画

### (4) 設備計画

- ①学生や教職員の帰宅困難者の一時滞在に配慮した計画
- ②屋上に設置する設備機器等の計画

※ 設計条件・要求図面等に対する重大な不適合

- ①「要求図面のうち1面以上欠けるもの」、「面積表が完成されていないもの」又は「計画の要点等が完成されていないもの」
- ②図面相互の重大な不整合（上下階の不整合、階段の欠落等）
- ③次の要求室・施設等のいずれかが計画されていないもの

製図室、研究室、会議室、ラウンジ、ゴミ保管庫、講堂、教室、図書室、カフェ、事務室、防災備蓄倉庫、受水槽室、消火ポンプ室、エレベーター、P S ・ E P S、屋上庭園、車椅子使用者用駐車場
--

- ④法令の重大な不適合等、その他設計条件を著しく逸脱しているもの

## ■公表内容の分析

### ◆「合格率」、「合否ランク」について

昨年度のデータと比較すると、製図の実受験者数は1,068名も多かったにもかかわらず、合格者数は391名少なく、製図の合格率自体は26.6%と、昨年の33.2%から**6.6ポイントも下がり、非常に厳しい試験結果**となりました。

また、昨年度に急激に増えた「**ランクⅣ**：設計条件及び要求図書に対する重大な不適合に該当するもの」が、今年度はさらに**5.4ポイントも増えて48%となり、受験者のほぼ半数が採点の土俵に上がることなく「失格」となった、非常に厳しい試験**であったことが分かります。

### ◆「受験者の答案の解答状況」について

「**階段の不成立**」が挙げられました。これは過去に、令和4年にも同じ内容が普及センターから公表されたことがあります。

今年度の試験では、講堂や製図室の天井高を確保するための「**階高**」に対して、建築基準法を満たす階段の適切な段数が計画できたかどうか合否を分けたポイントであると考えられます。

また、例年通り、法規に関するミスはやはり致命的となることが読み取れます。

特に今年は「**道路高さ制限**」、「**延焼ラインの明示と防火設備の設置**」に抵触した方が多かったようです。敷地の接道条件として、西側道路（駅前広場）の幅員が80mという、これまでにないほど広い幅員であったことを踏まえ、西側及び東側の道路高さ制限について正しい理解ができていたか、また、その知識に基づいた表現ができていたかが合否を分けたポイントであったと言えるでしょう。

## 資格の学校 TAC

### ◆「採点ポイント」について

- ・採点ポイントのうち、(2) 建築計画、(3) 構造計画、(4) 設備計画の内容については、昨年と同様に、**課題文中の「計画の要点等」の設問とほぼ同じ内容**でした。  
つまり、計画の要点の設問は「採点上も非常に重視される内容」なので、エスキス段階からその設問内容を踏まえた計画をすることが求められています。
- ・課題文中の要求室表に記載されている室について、**1室でも欠落があれば「失格」と**なることが読み取れます。また、エレベーターや PS、EPS などの設備関連の条件の未計画、屋上庭園や車椅子利用者用駐車場などの屋外施設の未計画も失格と判断されることになります。
- ・「その他大学の施設管理、授業運営に必要な室」といった受験生自らが考えて計画する室については、計画漏れがあったとしても「失格」とは判断されていないようです。また、要求室表にない、エントランスホール、トイレ (男女)、バリアフリートイレ、倉庫などの未計画は、採点上の判断がどのようなものなのか、気になる所です。

### ◆「標準解答例①、②」について

#### ・アプローチについて(主出入口)

アプローチ (主出入口) については、2案とも2か所 (西側の駅前広場からメインアプローチ、東側道路からサブアプローチを計画) を確保しており、ともに東西の道路、両方からアプローチできる計画でした。

周辺環境を踏まえ、利用者動線に配慮した計画が求められたと言えるでしょう。

#### ・グリッドの計画について

①では、X方向が8mスパン、Y方向が7mスパン、②ではX方向が8mスパン (一部7m)、Y方向が7mスパン (一部8m) で計画した。「50㎡以上」といった要求室の計画に適する8×7グリッドをベースに、2案とも計画されていました。

#### ・建築物の階数について

「階数は自由」という条件に対して、2案とも「5階建て」の計画でした。

ただし、②では、断面図の塔屋が3階平面図の敷地にかぶっている表現でした。

ここから判断すると、「6階建て」などの計画で3階平面図に断面図が重なっていても問題ないものと読み取れますが、採点上の判断がどのようなものなのか、気になる所です。

#### ・講堂(段床)について

##### ○配置計画

設置階の指定はありませんでしたが、2案とも1階の計画でした。①では横長に配置し、利用者の東西の動線に配慮した計画とし、②では縦長に配置したパターンが示されました。

##### ○面積

要求面積は「適宜」でしたが、①では315㎡、②では336㎡の計画で、2案ともに8×7の6グリッドでの計画でした。

##### ○段床の計画

2案とも段床を1階の床レベルより上げる計画でした。天井高を確保するため、①では2層で計画し、②では1層で計画し、階高を上げる計画としていました。

## 資格の学校 TAC

### ○構造

講堂の用途上、条件になくとも無柱空間としています。上部に PC 梁を計画して無柱とし、講堂の上階に載る室はすべて無柱で計画していました。

### ・大学の教室について

設置階の指定はありませんでしたが、2案とも、教室 A～D の4室すべて2階の計画でした。採光に配慮して、東西の道路側に向けて室配置をしていることが読み取れます。

### ・基礎免震について

2案とも、基礎免震の犬走り、エキスパンションジョイントを考慮し、境界線とのあきは最低でも3mを確保した計画としています。免震ピットには点検口の計画とともに屋内階段からも行き来できるように配慮されていました。

### ◆総評

今年度の試験の特徴は「階数自由」、「要求室の部門・設置階の指定なし」、「講堂の面積適宜」といった「自由度の高い」試験であったとともに、法規に関する正確な知識とそれに基づいた表現ができたかどうかといった、建築士として本質を問う試験（実務の設計に近い試験）であった印象でした。昨年よりさらにランクIVの割合も増え、合格率も非常に厳しい試験でしたので、来年以降も「ランクIVが多くを占める」という試験傾向が続くかもしれません。

まずは採点の土俵に上がるため、「法規の正確な知識とその運用」、「漏れのない図面とするためのチェック力」そして、「試験のセオリーに沿った計画の基礎」などは、合格するために必須となるでしょう。

これらの力は当然、一朝一夕で身につくものではありません。また、多くの課題をやみくもにこなしても、きっと遠回りとなるでしょう。

適切な量と質の課題を繰り返し解くことで、課題で求めている本質を理解し、さらにプランのバリエーションが想定でき、それらのプランの良否が判断できることが重要です。1つ1つの課題について、繰り返すことによる「課題の消化」を心掛けた学習が有効であると考えます。

## ■令和7年度試験にチャレンジする方へ

令和7年度試験に向け、7月の課題発表までの約半年間に以下の5つの対策を万全にしておくことで、合格がより鮮明に見えてくるはずです。

### 1. 作図力の強化

「作図の表現力を上げる」、「作図のスピードを上げる」、この2点が大きなテーマです。現状、**2時間半以内に作図完成ができない方は**、まずは現状のスピードを落とさないこと、さらに**7月までに2時間半以内に完成できるスピードを身に付けることが「合格の近道」となるでしょう。**

## 資格の学校 TAC

### 2. エスキスの強化

エスキスには「課題文の読み取り」、「周辺環境を考慮したアプローチ計画」、「ゾーニング」、「グリッド計画」、「階高、建築物の高さの検討」、「室の配置」など様々な要素があります。自分がどこでつまづくのか、ミスをするのか、**自己分析(弱点の把握)**を行い、その弱点を克服する必要があります。また、近年の試験は「計画の自由度」が高く、「自分で考えて計画する」という実務としての本来の「設計」に近い力が求められます。しかし、自由だからと言って「何でもよい」という訳ではありません。自由への対策は、まずは計画のセオリーに基づいた「基礎」をしっかりとし身に付ける必要があります。この期間に、様々な用途の課題に触れ、「計画の基礎」を身に付けましょう。

### 3. 記述力の強化

近年の記述は、毎年新しい要素がいくつか求められますが、なかなか対応することが難しい状況です。しかし、それ以外の設問は、過去の出題をベースにした学習で十分に対応できるので、そちらを落とさないような対策をしておくといいでしょう。過去問の研究はこの時期に是非やっておくべきです。

### 4. タイムマネジメント力の強化

難度の高い本試験では「エスキスに時間がかかって、作図はギリギリ。チェックする時間がありませんでした。」という方は多いのではないのでしょうか。自分の中でエスキス、作図、記述、チェック、などそれぞれの工程のデッドラインを決めておき、課題の難易度にかかわらず、毎回、必ずチェックまで行えるような「**タイムマネジメントの訓練**」が必要です。

### 5. チェック力の強化

チェック自体を甘く見ている受験生が多いのではないのでしょうか。チェックは余った時間で行うものではありません。エスキスや作図と同様に、合格するために絶対に必要な工程なのです。エスキスや作図の完了直後は、誰しも必ず漏れ落ちがあります。漏れ落ちのない図面を仕上げるための「**自己チェックを習慣付ける訓練**」が必要でしょう。

設計製図の試験は、**相対試験**（ライバルと競う試験）ですから、**今のうちにアドバンテージをとっておいた者勝ちです！**

そこで早めに対策のスタートを切れるように、TACでは**3月から開講する「総合設計製図本科生」の講座**をご用意しています。

ライバルに差を付けるために、是非早めに試験対策を始めることを強くオススメします！

今年の悔しさを絶対に忘れないでください！！

(次ページに続く)

## ■今年もやります！「標準解答例の分析」セミナー

昨年、大好評だった「標準解答例の分析」セミナーを今年もやります！

「標準解答例」から読み取れる「課題のポイント」やその「活用の仕方」などについて、12/27（金）19：30～「オンラインセミナー」にて解説します！

来年度、受験をお考えの方は今年の締めくくりとして、是非ご参加ください。

## ■令和7年一級建築士試験の適用法令について

今年度の「設計製図の試験」の合格発表時に、令和7年の試験の適用法令について公表されました。主に学科試験に関する内容となるものと思われませんが、早速、「TAC 建築士講師室ブログ」において井澤先生が記事をアップしています。気になる方は是非ご覧ください。

<http://kentikushi-blog.tac-school.co.jp/archives/58880191.html>

以上